

みえか

発行：財団法人 三重県環境保全事業団



雲出川から望む日の出



TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS

新年明けましておめでとうございます。

今年の干支の丑（うし）についての話題を。

生物学的には、ウシは哺乳類・偶蹄目・ウシ科・ウシ亜科（反芻亜目）に分類され、この亜科にはアフリカスイギュウ類、アジアスイギュウ類、バイソン類が含まれます。

ウシと比較的近縁の動物はキリン類やシカ類です。

牛は、メソポタミアで紀元前8000年頃に野生から家畜化され、世界各地に広がっていったとされています。

家畜牛の日本への導入時期は不明ですが、その飼育が本格化したのは古墳時代以降と考えられ、仏教の影響で肉食習慣のなかった幕末までは牛車や荷車の牽引や田畑を耕す労力といった役牛として利用されてきました。

外国との交流が盛んに行われた明治時代に入って、開化鍋と称された牛鍋により肉食の習慣が広まり、肉牛の飼育が本格化していきました。

我国で飼育される牛の品種は、乳牛ではホルスタイン種（体色が白黒まだら）が圧倒的に多く、他にジャージ種（体色が赤褐色で乳の味が濃い）、肉牛では黒毛和種、褐毛和種、日本短角種、無角和種が知られていますが、ホ

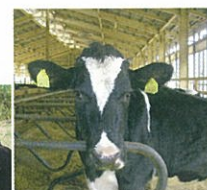
ルスタイン種のオスも肉用とされています。

三重県では、肉牛といえば松阪牛や伊賀牛が有名で、今や高級牛肉の代名詞となっています。これはブランドを定着・維持するための関係者のたゆまぬ努力の結果だと思えます。

当事業団としても、企業価値の向上に努めてまいりますので、ご支援を賜りますようお願いいたしますとともに、皆様にとって今年がよい年になりますようお祈り申し上げます。



黒毛和種



ホルスタイン種

主な参考文献

- ・ 1996日高敏隆監修，日本動物大百科 第2巻哺乳類Ⅱ，株式会社平凡社
- ・ 佐賀大学農学部HP
- ・ 東海農政局HP



溶融処理はダイオキシン類対策だけのもの？

廃棄物処理センターの溶融処理施設は、平成14年12月に供用を開始し、6年が経ちました。



廃棄物処理センター

この施設は、市町のごみ焼却施設などから排出される焼却灰・飛灰などに含まれるダイオキシン類の無害化を目的としたものですが、その資源化や廃プラスチック類のサーマルリサイクル*などにも取り組んでいます。

現在、ダイオキシン類の99.9%以上の削減を達成するなど、当初の目標を達成していますが、焼却灰等の資源化、言換えれば埋立処分の回避という役割も果たしています。そのためのポイントとして次の2点が挙げられます。

1点目は、溶融スラグの品質です。焼却灰・飛灰などを溶融処理すると、砂状のスラグが生成しますが、この溶融スラグの利用については、溶出等の基準が設定されており、これら基準を満足した年間約



溶融スラグを利用した製品

3万tを超える溶融スラグが建設資材として有効利用されています。

2点目は、溶融飛灰の資源化（山元還元**）です。溶融飛灰は、非鉄金属製錬会社での重金属類の回収により、平成19年度の実績では亜鉛を約125t、鉛を約29t、銅を約13t回収しています。



溶融飛灰から回収した亜鉛・銅・鉛のインゴットの見本です。

この溶融スラグが良好な品質であることと溶融飛灰の資源化という二つのことがきちんと出来ていることから、これまでに搬入された約32万tの焼却灰・飛灰・廃プラスチック類等のほぼ完全な埋立処分の回避が実現しています。

この量は約30万人都市が15年から20年間で必要とする最終処分場1個分に相当します。

このように、この溶融処理施設はダイオキシン類の無害化だけではなく、焼却灰等の埋立回避により各市町の最終処分場の負担を大幅に軽減し、併せて県内の環境負荷軽減に大きく寄与しています。

*サーマルリサイクル：廃棄物を焼却して得られる熱エネルギーを回収すること

**山元還元：廃棄物を溶融処理した飛灰から非鉄金属を回収する方法

お問い合わせ先 廃棄物管理部 溶融施設課（廃棄物処理センター） tel 059-328-8650 fax 059-328-8652

ISO 9001：2008 追補改訂版の発行について

1. ISO 9001：2008追補改訂版の発行について

ISO 9001：2000が改訂され、追補改訂版として、ISO 9001：2008が2008年11月15日に、JIS Q 9001：2008が2008年12月20日に発行されました。

今回の改訂作業は、2000年版のISO 9001に対して、

- 規格要求事項の明確化
- 公式解釈を必要とするような曖昧さを除去
- ISO 14001との整合性の向上

を行い、規格の本来の意図が正しく理解され、活用されることが目的とされています。

今回の追補改訂は、規格の要求事項を追加するものでも、その意図を変更するものでもないといわれていますが、本来の意図が正しく理解されていない部分があった場合には、品質マネジメントシ

ステムの運用等を見直し、適切な対応が必要になる場合があるとされています。

2. ISO 9001：2008発行に伴う認証の移行について

ISO 9001認証の2008年版への移行期間について、次のことに留意する必要があります。

- 2010年11月14日の時点で、ISO 9001：2000に対しての認証はすべて無効となります。
- 2010年11月14日までに2008年版への移行を実施する必要があります。
- 2009年11月14日を過ぎると、初回登録審査及び更新審査（再認証審査）は、すべて2008年版で審査を実施する必要があります。

ISCの対応では、実施する定期サーベイランス又は更新審査において、ISO 9001：2008（JIS Q 9001：2008）の移行の適合状況を確認していきます。

お問い合わせ先 国際規格審査登録センター（ISC） tel 059-245-7514 fax 059-245-7524

体験学習「身近な環境問題と新エネルギーを学ぼう」を実施しました



昨年、11月9日(日)に開催しました体験学習は、あいにくの天候にもかかわらず、小学生や保護者の方で約45名の参加がありました。

始めに事業団で、県地球温暖化防止活動推進センター長の朴恵淑さんより、このまま温暖化が進み地球の温度が上がると、南極の氷

が解け、海水面が上昇し、低い土地や小さな島が海に沈み、大洪水や大干ばつなどが世界中で起こるといわれていることなどをお話してもらい、「レジ袋は受け取らず、マイバック(エコバック)を持つ」など、身近でできる取組みを学びました。

その後は、黒板消しクリーナーを用いたホーバークラフトの体験試乗会があり、子供たちはもちろんのこと、大人の方も非常に興味を持たれた乗り物だったようです。

青山高原の風力発電施設に着いた時は、寒い上にガスで視界も悪く、条件がよくありませんでしたが、霧のなか子供たちは、風車のそばで「ビュー、ビュー」という風切音を体感し、タワーの高さと風車の直径(50メートル)の大きさに感動していました。

「この施設は、国内有数の風力発電施設であり、風という自然エネルギーを利用して発電することから、地球温暖化防止に大きな期待が寄せられている」という事業会社の榎シーテックの方の説明がありました。

現在、津市営の施設(4基)、青山高原ウインドファーム(20基)、ウインドパーク美里(8基)併せて32基が稼動しており、さらに19基の増設が予定されているそうです。

ご協力いただきました三重県地球温暖化防止活動推進センター、榎シーテックの皆様方には御礼申し上げます。



お問い合わせ先 調査部 環境調査課 フリーアクセス 0120-0592-02 tel 059-245-7509 fax 059-245-7519

「土壌汚染対策の在り方」が検討されています!!

平成20年11月14日に開催されました国の中央環境審議会土壌農薬部会土壌制度小委員会において、「今後の土壌汚染対策の在り方について(案)」がとりまとめられ、その中で土壌汚染に関する現状と課題として、次の3点が示されています。

① 法に基づかない自主的な調査による土壌汚染の発見の増加

土壌汚染地について情報が開示され、適切かつ確実に管理・対策を進めることが重要であります。

② 汚染状況に応じた合理的な対策

汚染の状況や健康被害の生ずるおそれの有無に応じて、必要な対策の基準の明確化が求められます。

③ 掘削除去に伴う搬出汚染土壌の適正な処理

汚染土壌の不法投棄等不適正な処理防止のため、適正な処理の基準や是正処置が必要です。

今後、この(案)をもとに、パブリックコメントなども参考として土壌汚染対策法が改正される予定となっています。

当事業団は、このような動向を的確に踏まえ、「土壌汚染対策法に基づく指定調査機関」として対応していきます。

土壌汚染調査に関して、何なりとお問い合わせいただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先 調査部 環境分析課 フリーアクセス 0120-0592-02 tel 059-245-7508 fax 059-245-7516



平成20年11月
津市河芸町内で大矢職員撮影

「わが家の庭先の少しばかりの笹の群立ちに吹く風の、葉ずれの音がかすかに聞こえてくる、この夕の物寂しさよ。」と、詠まれています。

風にゆれる竹林、葉の音、竹のある風景は、日本のふるさとを代表するものです。わずかな風にそよぐ葉ずれに、静かに聞き入る作者の思いが伝わってきます。

竹の種類はたいへん多く、ササ類が北方系であるのに対して、タケは南方系です。モウソウチクは江戸時代中頃に中国から渡来しました。そのため、万葉の時代の竹はマダケであろうと思われます。マダケはもともと日本に生育していたとする説と古い時代に中国から渡ってきたとする説があります。

葛山博次著「万葉集の植物」より

万葉人の 愛した草木

その十七



わが屋戸の いささ群竹 吹く風の

音のかそけき この夕かも

大伴家持(巻一九の四二九)

平成20年度 ISO 研修参加者募集!!

ISO14001/ISO9001 内部監査員養成セミナー〈2日間コース〉

対 象 新しい内部監査員の養成、ISOコンサルタントを目指す方 等

内 容 規格要求事項の解説、内部監査の説明、内部監査の場面を想定したケーススタディ(チェックリスト、内部監査報告書の作成等)

開催月日 時間は、9:00～17:00

開催場所 財団法人 三重県環境保全事業団
河芸社屋2階大会議室

ISO14001 内部監査員養成セミナー

平成21年1月22日(木)・23日(金) 平成21年2月19日(木)・20日(金)

定 員 30名

ISO9001 内部監査員養成セミナー

平成21年3月12日(木)・13日(金)

参加費 42,000円/1名
(昼食付き、消費税含む)

New

ISO 9001:2008 変更点解説セミナー

対 象 ISO 9001:2000認証取得組織の内部監査員、事務局、管理責任者、コンサルタントの方 等

内 容 ISO 9001:2008の概要、2000年版と2008年版との変更点の解説

開催月日 時間は、13:00～16:00

平成21年2月6日(金) 平成21年3月9日(月)

参加費 10,500円/1名
(消費税含む。JIS Q 9001:2008の代金を含む。)

開催場所 財団法人 三重県環境保全事業団
河芸社屋2階大会議室

定 員 50名

お問い合わせ先 調査部環境調査課 ISO研修担当
tel 059-245-7503 fax 059-245-7519

■河芸社屋

〒510-0304 三重県津市河芸町上野 3258 番地
tel 059-245-7505 (代表) fax 059-245-7515
フリーアクセス 0120-0592-03
ホームページ <http://www.mec.or.jp>

■廃棄物処理センター(溶融処理事業)

〒512-1102 四日市市小山町字西北野 3234-1
tel 059-328-8650 (代表) fax 059-328-8652

■三田最終処分場(埋立処分事業)

〒510-0841 四日市市三田町9番地の地先
tel 059-349-5016 (代表) fax 059-346-6500

■小山リサイクルセンター(破碎処理)

〒512-1102 四日市市小山町字大犬谷 3258
tel 059-328-2567 (代表) fax 059-328-2967

●事業団へのご意見・ご希望または「みえか」のご感想をお寄せ下さい。e-mail: mec@mec.or.jp